

2007年11月22日

## パネルディスカッション:

### 「ネットワークはどうあるべきなのか」 ~ Internet Weekプログラム委員が考える 現状の問題提起と今後に向けて ~

2007年11月22日  
インターネット協会 (IAJapan)  
日本ネットワークインフォメーションセンター(JPNIC)

“itojun” has passed away on October 29, 2007  
Millions of thanks and regards, itojun, called as  
the IPv6-samurai.  
We must promise the deployment of IPv6 to him.



**Internet Society**  
All About IEGC | All About the Internet | Search Site Map  
Organization Members | Global Members | News

**Press info**

**Dr. Jun-ichiro Hagino, IETF participant and former IAB member, died on 29 October 2007**

He was 37 years old and had been dealing with a recent illness.

The Internet Society, the Internet Engineering Task Force (IETF) and the Internet Architecture Board (IAB) would like to express our sincere condolences to the family, colleagues and friends of Dr. Jun-ichiro Hagino.

Dr Hagino was an active participant on the IETF and a member of the IAB from 2003 to 2006. He worked as a Senior Researcher at the Internet Initiative Japan (IIJ) and was a member of the board of the IPv6 Samurai Project (ISP) and was a member of the board of the IPv6 Samurai Project. He was a strong supporter of open standards development and open software, working as a core researcher at the KAME project, a joint effort of six companies in Japan to provide a free stack of IPv6, IPsec, and Mobile IPv6 for BSD variants, from 1998 to 2006.

Russ Housley, IETF Chair and Chair Kuleman, IAB Chair issued a brief joint statement: "Itajun has been active in the IETF's IPv6 related working groups and has made valuable contributions. He has inspired many and will be missed."

Jun Murai, Director of the INICE project, said online that the family is planning a memorial service at Rinsen Sajo (Tajiro, Japan [Google Maps](#)) on November 6th from 5:00pm, and a funeral service the following day on November 7th from 11:00am. INICE will be accepting messages for the family through [message\\_for\\_itojun@iwinet.net](mailto:message_for_itojun@iwinet.net).

1775 Water Ave., Suite 102, Reston, VA, USA 20190-6108



Open Source (BSD)  
Global (IETF/IAB)  
IPv6 development

2007年11月22日

## パネルディスカッション:

### 「ネットワークはどうあるべきなのか」 ～ Internet Weekプログラム委員が考える 現状の問題提起と今後に向けて～

2007年11月22日  
インターネット協会 (IAJapan)  
日本ネットワークインフォメーションセンター(JPNIC)

## Shinodaさんの”貴重”講演

- “面”としてのインターネットの利用 (わがままなユーザが手を組める環境)
  - マルチキャストは再起できる? → 光とデジタル放送が救世主?
  - P2P が IP技術を Replace してくれないかなあ(新世代ネット?)
- 壊したいもの、試したいもの
  - 最適化されたシステムは“脆い”。無駄(自由度)の進め?
  - 壊してみないと分からないものがいっぱい。
- 超”光”速インターネット
  - 「相対性理論」(遅延)への挑戦を投機的通信で。
- 見える化
- 自然なバランス: “極端”じゃなくポートフォリオで。
  - 「中庸」のxx (e.g., セキュリティー)

## Privileges of “this/these” meeting(s)

1. 年末に開催される。
  - なんだか、年の総括っぽい。
2. 「偉い」方々が、始めた会議のようだ。
  - つまり、「権威」があるらしい。
3. 不思議と、「全員集合」状態。
  - 「面倒な」根回し作業を省略
  - At Large Stake-holders
  - 「誤解」を宴会で解けるかも。。。

## 議論したい(と思っている)テーマ

1. 認証、セキュリティ、相互接続の観点から
2. デジタルコンテンツと著作権の観点から
3. インターネットの資源管理の観点から  
～ v4在庫枯渇がやってくる～
4. 通信事業者のオペレーションの現場から
5. 地域を考える立場から
6. 企業のユーザーの立場から

## 登壇者

- 谷脇 康彦(総務省総合通信基盤局事業政策課長)
- Internet Week 2007 プログラム委員
  - 秋山 卓司(JCAF)[PKI Today!]
  - 井芹 昌信(IAjapan)[Enterprise2.0]
  - 宇井 隆晴(JPRS)[DNS Day]
  - 佐野 晋(JPNIC)/壇 俊光(Dreamboat) [コンテンツと著作権]
  - 立石 聡明/JAIPA[事業者がやっているいいこと悪いこと]
  - 前村 昌紀/JPNIC/[IPv4アドレス在庫枯渇問題を見通す]
  - 向井 将/JANOG/[The Internet Operation]

## 各セッションの報告(1/2)

- PKI Today! (秋山 卓司@JCAF)
  - 「運用技術」確立のフェーズへ, マルチドメイン, 2010年問題
- DNS Day (宇井 隆晴@JPRS)
  - すべてを同じ技術にしない(RootDNS), AS112, オペレータグループ, DNS依存度の増加(managed DNSサービス)
- Enterprise Web2.0 (井芹 昌信@IAjapan)
  - 厳密運用の日本企業に、導入可能か?
- コンテンツと著作権(壇俊光@Dreamboat, 佐野晋@JPNIC)
  - 法律体系もレイヤ構造、バグのある法体系、みんなのための著作権、ユーザが作る文化、誰を保護するの?、政策決定プロセスのオープン化

## 各セッションの報告(2/2)

- 事業者がやっているいいこと悪いこと(立石聡明@JAIPA)
  - 通信の秘密の再考の必要性、大量通信への対処、本人の同意は?、ドメイン名紛争対処、有害情報対策
- IPv4アドレス在庫枯渇問題(前村昌紀@JPNIC)
  - 3つのグループで検討中、アドレス回収は実現性不透明、やはりIPv6しかないか。
  - AP地域LIR共同利用IPv4 アドレス空間
- The Internet Operation(向井将@JANOG)
  - アーキテクチャ再考(RAM,LISP)が始まっているみたい。ポストオーバーレイかな?。線から面への展開。距離/遅延との戦い。次のアーキテクチャへの移行手法

## 総務省 谷脇 課長の論点

1. インターネットはインフラとして耐えうるか?  
e.g., P2Pは救世主になるか?
2. セマンティックウェブは実現可能か?  
i.e., 情報爆発への対応策は?
3. ネットワークの選択の自由は確保可能か?  
NGN はみんなのインターネットの基盤たるか?
4. 利用者利益は確保可能か?
5. 端末は引き続き端末か?  
ミドルウェア(認証、DRMなど)の民主化?
6. 電腦民主主義は実現するか? → 国 vs グローバル
7. 新世代ネットワークはいつ実現するか? → 2015年

## 総務省 谷脇 課長の論点(Updated)

1. インターネットはインフラとして耐えるか？  
e.g., P2Pは救世主になるか？
2. セマンティックウェブは実現可能か？  
i.e., 情報爆発への対応策は？
3. ネットワークの選択の自由は確保可能か？  
NGN はみんなのインターネットの基盤たるか？
4. 利用者利益は確保可能か？
5. 端末は引き続き端末か？  
ミドルウェア(認証、DRMなど)の民主化？
6. 電腦民主主義は実現するか？ → 国 vs グローバル
7. 新世代ネットワークはいつ実現するか？ → 2015年
8. 各Stake-Holderの役割、協調とガバナンス

## フェアユースを考えてみよう

- フェアユースについていけない人 へどう対応するのか？
- 公平 じゃなく 公正
- 「フェア」じゃない方が 得することへの問題
  - すごく難しい問題です。 → みんなで解決しないとね。
  - 「通信の秘密」という障壁。。。 → 最終的には憲法問題になる
  - 正直者(e.g., ネット運用者、DNSオペレータ)が苦勞する構造 をどうやって改善するか？
- 「誰」が、フェア を判断するのか？
- インターネットへの規制は どうあるべきか？
- 一般ユーザへの 周知 が不足している
  - 各プレーヤの役割の認識と状況共有
  - 「インターネット的思考法」の 布教活動
  - 平均的 リテラシーレベルは、普及とともに 下がってしまう。
- 戦略的 当事者間の交流(殴り合いともいう) の必要性

## 目的というか → 結論

- 我々が、2008年に行うべきことをリストアップ
    - 2010年問題(IPv4, 暗号, AS番号)
      - e.g., IPv6移行への準備と訓練
    - 情報流通によるバランスされた(LOHAS)構造への挑戦
    - ユーザ(一般ユーザ&企業)リテラシーの向上
    - 苦労人が評価される仕組み?
    - 善意を期待できない状況への対応
    - グローバルとの整合性を持った国内施策
    - 携帯電話関係者を
    - 法とインターネット
    - 異なる業種の人とお友達になる。
      - 例: エンドユーザとの交流
- (\*) 不足している プレーヤ はいないか?